

大阪フロイデニュース

Freude

vol. 9 -14 2017. 2.15. wed

丁寧 に、大切に。

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

次回のコンサートが決まりました (● ^ 〇 ^ ●)

ちょっとまだ、実感がわかないかもしれませんが!? 「次の演奏会」決定\ (◎o◎) /!

2018年2月15日 (木) いずみホール (オケ合せは2月14日 (水))

ベートーヴェン「ミサ ハ長調 op.86」(約50分)

ベートーヴェンの「ミサ」といえば、第九と同時期、晩年に作曲された「ミサ・ソレムニス」op.123が有名ですが、実はもうひとつ「ミサ ハ長調 op.86 (通称：アイゼンシュタットのミサ)」を書いています。教会ミサとしては、ベートーヴェン唯一の作品です。

交響曲第3番から3年後、第4番やヴァイオリン協奏曲、ラズモフスキー弦楽四重奏曲や、その翌年の第5番、第6番などが作曲されたベートーヴェンの「傑作の森」と呼ばれている1807年の作品。ベートーヴェン36歳。

ミサ・ソレムニスに比べて、規模は小さいものですが、当時の『ミサ曲』としてはかなりの意欲作。ベートーヴェンは「私はテキストを、従来はほとんど扱われなかったような全く新しい方法で扱っている」と書いており、テキストを明瞭に聴かせ、強調する言葉と音楽の高揚と一致させたとのこと(と、モノの本に書いてある!)。実際にこのミサ曲は言葉がはっきり聞き取れることに驚かされる、との感想も。

ハイドンが仕えていたエステルハージ侯の依頼で作曲されましたが、フォーレのレクイエム同様、初演ではほとんど理解されずに評判は悪かったそう。ハイドンのような古典的ミサ曲にはない新しい構成やテキストの扱いで、斬新で革新的すぎたためではないかって。

この曲、演奏機会は少ないですが、実はファンが多い曲。「敬虔で美しい」「初めて聴いた時に清潔な音楽に感動」「ふくよかで優しい感情と充実した音楽が融合したベートーヴェンの作品の中でも屈指の名曲」などの感想がいっぱい。ちょっと楽しみです!

いずみホールでベートーヴェンができる! ワクワク! 楽譜は手配中です! お楽しみに!
で! もちろん、次につなげるには「ヴィヴァケルのステキな演奏」が必須! がんばろー!



2/19(日)

13:15 ~

東成区民ホール

(地下鉄「今里」)

2/22(水)

18:30 ~

クレオ大阪東

(京橋「伊0」)

3/1(水)

18:30 ~

天王寺ホール

